

週休2日・残業なしで
月の手取り

20万円以上に

中小企業の社会保険料減免、賃上げ助成で賃上げを後押しし、最低賃金を「全国一律時給1500円」に。財源は、大企業の内部留保に、5年間だけ2%課税して10兆円を生みだします。

HP f t 日本共産党
syouzoumajima@yahoo.co.jp



サポーター募集



ネットアンケート



福岡民報 2023年1月号外
発行 福岡民報社



●1964年12月9日第三種郵便物許可 ●〒810-0822 福岡市中央区薬院3-13-12大場ビル3階

高校も大学・専門学校も、
国公立も私学も

学費を無料に

日本にしかない入学料も廃止し、給付制の奨学金を広げます。奨学金の返済支援を福岡県で実行します。

学校給食を無償に

誰もが自分らしく
尊厳をもって生きられる社会を

ジェンダー平等

男女間の賃金格差をなくすために、企業に格差の実態を公開させ、是正を義務付けます。選択的夫婦別姓、同性婚、リプロダクティブ・ヘルス&ライツを実現します。

日本共産党の責任ある財源策
大企業や富裕層の応分の負担で

20兆円を

自民・公明政権が行った富裕層や大企業への大幅な減税を見直し、応分の負担を求めます。20兆円の恒久財源ができれば、消費税を5%に引き下げ、教育や社会保障に経済力にふさわしい予算をつかえます。

気候危機打開へ
脱炭素化で市内経済を元気に

石炭火力と原発依存をきっぱりやめて、省エネと再エネを本気で徹底すれば、北九州市内で、年平均1240億円の新たな投資と年平均8800人の新たな雇用を生み出せます。

あなたはどっちがいいですか？

大軍拡で世界第3位の軍事大国になり、相手の国に届くミサイルをアメリカから爆買いする。アメリカのやる戦争に日本が参加し、先制攻撃で日本への報復攻撃をまねく。

岸田政権の大軍拡計画

東南アジアの国々（ASEAN）は、東アジアのすべての国が参加するサミットを通じ、戦争の心配のない東アジアにしようと努力している。憲法9条を生かした外交で、現にある「対話の枠組み」を発展させる。

日本共産党の「外交ビジョン」

八幡西区民の声（アンケートより）

●私は看護師でコロナ患者に第一線で対応しています。現場のスタッフは疲弊しています。物価はどんどん上昇し、友人は生活苦となっています。市民の税金は新しい橋よりももっと有意義につかってほしい。（40歳女性）

●3人目の子どもが生まれたばかりです。給与もコロナの影響で下がり、経済的に不安な日々が続いています。上の子たちの保育料や給食費も決して安くない負担です。生理用品や子どものオムツなど必ず要るものは無償にしてほしいです。（30代女性）

●工場で働いています。正社員で月20万円にもならない手取りでやりくりして子どもを育てています。学校給食や子どもの医療費を無料にしてほしいです。（46歳男性）

●外出にタクシーを利用しています。歩くのがやっとでバス停までも行けないんです。タクシーにもつかえる高齢者福祉乗車券があれば助かります。長生きしてよかったのかなと思います。（73歳女性）

●国防費のための増税絶対反対。私の父は、「人生50年」と言われた時代に1945年4月、44歳で出征。町には男性が老人一人しかいなくなりました。こんな経験は77年前で終わりにしたい。（87歳女性）

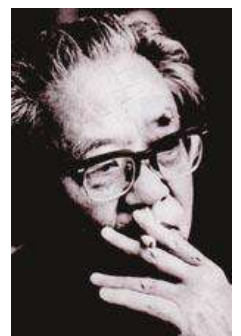


北九州ゆかりの3人 未来への思い



昨年没後百年
だった森鷗外は、
晩年、社会主義・
共産主義の研究
に熱中し、論じて
います。

鷗外は、長時間労働に反対し、「真の解決は資本家のいう労使協調でなく資本家階級をなくすことだ」と論じ、議会を通じての革命に賛成しています。鷗外が没した1922年7月は、日本共産党誕生の年。鷗外の先駆性は高く評価すべきです。
(2022/12/26 「しんぶん赤旗」)



昨年没後30年だった

北九州生まれの松本清張。家が貧しく、小学校卒で働き始めた清張は、プロレタリア文学に接したため特高警察に逮捕され、拷問を受けたことも。70年代、80年代は国政選挙のたびに日本共産党のピラに顔写真入りで期待を寄せました。

80年の談話「私が共産党の人たちに求めるのは、いつまでも清潔さを失わず、誠実に庶民の立場をつらぬくこと、明るく、ロマンチズムを忘れぬことである。現実を重視するのはもちろん大切だが、ロマンのない人では未来を語る事ができないからだ。大いに期待している」

(22/8/4 「しんぶん赤旗」)



北九州市ゆかりの漫画家、松本零士さんは、「戦場漫画」シリーズを半世紀以上描き続けています。陸軍のベテランパイロットだった父親から学んだ「命の大切さ」を若い世代に伝えることが、漫画家としての使命なのだと言います。松本さんは話します。

「生きるために命は生まれるんで、死ぬために生まれてくる命などはないと、それは父にはっきり言われたんです。争いあって殺しあわなきゃいけないのは悲劇です。だから私は、いま地球上で争っている場合じゃないと思ってるんですよ」

(18/8/3 NHK)